

グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)

**2020年初来のパフォーマンスの
振り返りと今後の見通し**



ゲノム関連銘柄を主要投資対象とする当ファンドは、2020年2月下旬以降、コロナショックの影響を受け大きく下落したものの、その後は、主要国・地域で前例にない規模の経済支援政策が打ち出されたことや経済活動再開の動きなどを受けて上昇に転じ、足元でも堅調に推移しています。

本資料では、2020年初来における当ファンドの足元のパフォーマンスや今後の見通しなどについて、当ファンドのマザーファンドの運用に助言を行なうアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）の見解をもとに、ご紹介します。

**本資料の
内容**

- **2020年初来の投資環境と
当ファンドのパフォーマンス** P2
- **銘柄別パフォーマンス寄与度** P3
- **ゲノム革命の今後の見通し** P8
- **アーク社からのメッセージ** P9

当ファンドの運用状況

＜基準価額の推移＞

(2019年1月16日(設定日)～2020年8月21日)



**基準価額
16,715円**
**純資産総額
820億円**
2020年8月21日現在

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

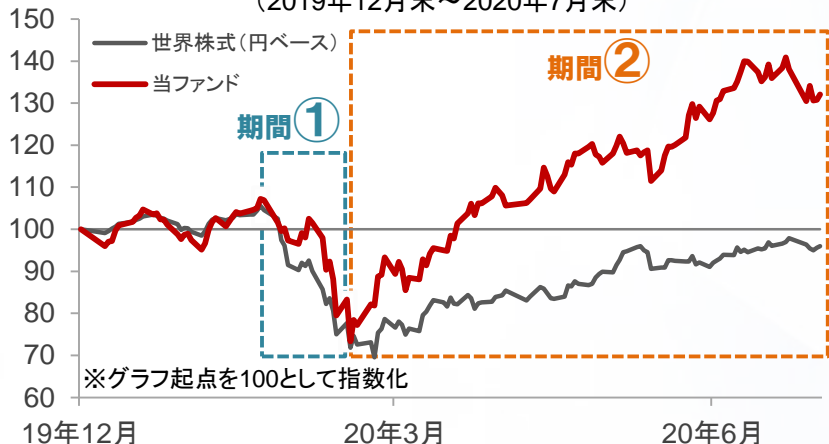
2020年初来の投資環境と当ファンドのパフォーマンス

2月20日以降、新型コロナウイルス（以下、新型ウイルス）の感染拡大や、主要産油国による追加減産に関する協議の決裂を受けた原油価格の急落などが嫌気され、3月中旬にかけて、世界的に株式市場は大きく下落しました。しかしその後は、世界各国で大型の財政・金融政策が発表されたことや経済活動再開の動きなどを受け、世界の株式市場は上昇に転じました。

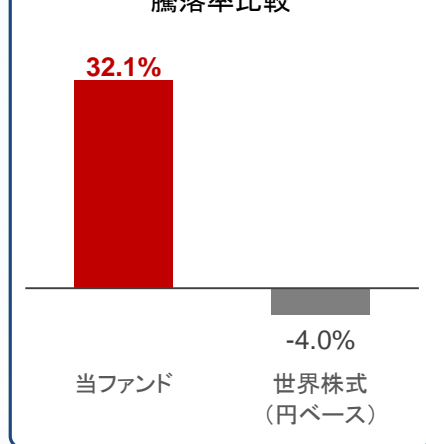
このような中、当ファンドの投資対象であるゲノム関連企業の株式も、市場全体の大きな流れに押され、3月中旬にかけて下落したものの、複数のバイオ製薬企業などによる新型ウイルス向け治療薬やワクチンの開発進展に関する報道などを追い風に、大きく反発しました。

こうした結果、当ファンドの**2020年初来の騰落率は+32.1%**（2020年7月31日現在）となりました。

＜当ファンドと世界株式の推移＞
（2019年12月末～2020年7月末）



2019年12月末～2020年7月末の騰落率比較

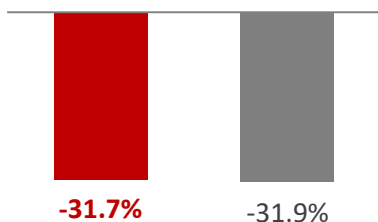


＜期間別騰落率比較＞

■ 当ファンド ■ 世界株式 (円ベース)

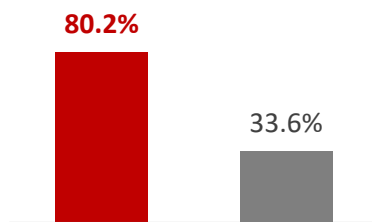
期間① (2020年2月20日～3月17日)

新型ウイルスの感染拡大や米経済の鈍化を示す指標の発表、さらに、3月以降、主要産油国による追加減産に関する協議の決裂を受けた原油価格の急落などが嫌気され、世界的に株式市場や通貨（対円）が大きく下落



期間② (2020年3月17日～7月末)

世界各国で、大型の財政・金融政策が発表されたことや経済活動の再開、新型ウイルス向けワクチン・治療薬の開発進展などを受け、株価は上昇基調に



※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※世界株式:MSCI ACワールド指数(トータルリターン、円ベース)の値です。

※上記指数は当ファンドの算出方法に準じ、前営業日の指数値に当該営業日の為替レートを乗じて、日興アセットマネジメントが円換算しています。

※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(2019年12月末～2020年7月末)

当ファンドの2019年12月末～2020年7月末のパフォーマンスに寄与した主な銘柄は、以下の通りです。

＜当ファンドと世界株式の推移＞
(2019年12月末～2020年7月末)



※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。
 ※世界株式:MSCI ACワールド指数(トータルリターン、円ベース)の値です。
 ※上記指数は当ファンドの算出方法に準じ、前営業日の指数値に当該営業日の為替レートを乗じて、日興アセットマネジメントが円換算しています。
 ※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。

＜銘柄別パフォーマンス寄与度(円ベース)＞
(2019年12月末～2020年7月末)

寄与度上位5銘柄

	銘柄名	通貨	国・地域	業種	寄与度
★	テラドック・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機器	6.0%
★	イノビオ・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオ*	4.1%
★	BGIゲノミクス	中国元	中国	医薬品・バイオ*	3.4%
	インビテ	米ドル	米国	医薬品・バイオ*	2.9%
	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオ*	2.6%

寄与度下位5銘柄

	銘柄名	通貨	国・地域	業種	寄与度
	ルビウス・セラビューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオ*	▲1.6%
	プレシゲン	米ドル	米国	医薬品・バイオ*	▲1.1%
	コデクシス	米ドル	米国	医薬品・バイオ*	▲0.9%
	ブルーバード・バイオ	米ドル	米国	医薬品・バイオ*	▲0.6%
	ジェンスクリプト・バイオテック	香港ドル	中国	医薬品・バイオ*	▲0.5%

* 医薬品・バイオテクノロジー

P5以降で、上記銘柄のうち、「★」マークの銘柄についてご紹介します。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。

※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。

※寄与度は、各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、円換算済みの概算値となっています。そのため、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ご参考：銘柄別パフォーマンス寄与度（期間別）

当ファンドのコロナショック以降のパフォーマンスに寄与した主な銘柄は、以下の通りです。

＜各期間ごとの銘柄別パフォーマンス寄与度と当ファンドおよび世界株式の推移（円ベース）＞

期間①の寄与度上位・下位3銘柄

（2020年2月20日～2020年3月17日）

	銘柄名	国・地域	寄与度
寄与度上位	シャンハイ・フォースン・ファーマシューティカル	中国	0.1%
	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	0.1%
	イノビオ・ファーマシューティカルズ	米国	0.1%
寄与度下位	CRISPR セラピューティクス	スイス	▲2.0%
	イルミナ	米国	▲2.5%
	インビテ	米国	▲3.9%

（2019年12月末～2020年7月末）



※基準価額は信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。
 ※世界株式：MSCI ACワールド指数（トータルリターン、円ベース）の値です。
 ※上記指数は当ファンドの算出方法に準じ、前営業日の指数値に当該営業日の為替レートを乗じて、日興アセットマネジメントが円換算しています。
 ※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。
 ※信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成

期間②の寄与度上位・下位3銘柄

（2020年3月17日～2020年7月末）

	銘柄名	国・地域	寄与度
寄与度上位	イルミナ	米国	7.2%
	インビテ	米国	6.5%
	CRISPR セラピューティクス	スイス	5.8%
寄与度下位	フリージア	米国	▲0.0%
	チャイナ・バイオロジック・プロダクツ	中国	▲0.1%
	ルビウス・セラピューティクス	米国	▲0.2%

DNA解析装置（シーケンサー）などの包括的なシステム・機器の開発、提供

期間①：中国同業のシーケンサー販売による競争激化懸念などから、下落

期間②：新型コロナウイルスの診断において同社製品がFDA*の使用許可を受けたことなどが好感され、上昇

* 米国食品医薬品局

画期的なゲノム編集技術であるCRISPR/Cas9（クリスパー/キャスニン）の基礎的ライセンスを保有する3社のうちの1社

期間①：新型コロナウイルス感染拡大による臨床試験の遅れが嫌気され下落

期間②：主力開発品における良好な治験データの発表などが好感され、上昇

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。

※寄与度は、各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト（売買手数料や信託報酬など）などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、円換算済みの概算値となっています。そのため、実際の基準価額の変動に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

プラス寄与度の大きかった銘柄①



※写真はイメージです

テラドック・ヘルス



米国

世界各地で遠隔医療サービスを提供

企業概要

- ✓ インターネットやモバイル端末などを通じて、認定専門医に24時間いつでもアクセスでき、診断、療法助言、および投薬の処方などのサービスを提供する大手医療サービス会社です。

上昇要因

- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大を受けた遠隔医療サービスの需要拡大が追い風となったほか、病院など向けの遠隔医療システムを提供するソフトウェア大手、インタッチ・ヘルスの買収が好感されました。

今後の見通し

- ✓ 今回のコロナ禍を機に遠隔医療サービスを利用した患者の多くは、その利便性から、新型コロナウイルス終息後も同サービスを利用し続けるとみられ、同社のサービスの利用者は今後も拡大していくと考えています。
- ✓ また、2020年8月、慢性疾患患者を対象にIoT（モノのインターネット化）などを駆使したデジタル医療管理サービスを提供するリボンゴ・ヘルスの買収を発表しました。リボンゴ・ヘルスが保有する豊富な医療データは、競合他社との大きな差別化要因になるとみえています。

※当ページは、2019年12月末から2020年7月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。



※当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

プラス寄与度の大きかった銘柄②



※写真はイメージです

イノビオ・ ファーマシューティカルズ



米国

DNA医薬品の開発を手掛けるバイオ企業

企業概要

- ✓ がんDNAや感染症DNAワクチンなどDNA医薬品の開発を手掛けるバイオ製薬企業です。
- ✓ 同社は、大手製薬企業や研究機関、政府機関など、多様な機関と協力し、医薬品の開発に取り組んでいます。



※当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

上昇要因

- ✓ 2020年3月に、新型コロナウイルス向けDNAワクチンの開発スケジュールを前倒し、4月から臨床試験を開始することを発表したことなどが好感されました。
- ✓ また6月には、新型コロナウイルス向けDNAワクチンの開発に対して、米国防総省から7,100万米ドルの提供を受けたことや新型コロナウイルス向けDNAワクチンを健常なヒトに投与した第1相臨床試験の中間解析での良好な結果などを受け、株価が上昇しました。

今後の見通し

同社は新型コロナウイルス向けDNAワクチンの開発を加速しています。7月には、米国政府が主導し、2021年1月までに安全かつ有効な新型コロナウイルス用ワクチンの開発を目指す「ワープ・スピード作戦」において、同社のワクチンが実験の対象に選ばれたことも発表されており、今後の開発進展が期待されます。

※当ページは、2019年12月末から2020年7月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

プラス寄与度の大きかった銘柄③



※写真はイメージです

BGIゲノミクス



中国

ゲノム解析・タンパク質解析の巨人

企業概要

- ✓ 世界60カ国超の学術機関、製薬企業などに、ゲノム解析・タンパク質解析サービスやゲノム解析機器などを提供しています。
- ✓ 顧客が同社の研究所を使って生体試料*を分析する「シーケンシング・アズ・ア・サービス」なども行なっています。

*ヒトや動植物から得た血液や尿など

＜株価の推移＞



※当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

上昇要因

- ✓ 今回の新型コロナウイルス感染拡大に伴う混乱により、ゲノム解析技術の重要性が再認識されています。ゲノム解析は、ウイルスの特定に用いられるほか、遺伝子配列の解析により、ウイルスの感染経路の追跡やワクチンの開発、感染拡大の抑制などに貢献しています。
- ✓ 世界的な新型コロナウイルス感染拡大を背景に、同社の製品、サービスの需要が増加するとの期待から、株価が上昇しました。

今後の見通し

中国政府は、精密医療の充実やバイオテクノロジー技術の発展に力を入れています。新型コロナウイルス感染拡大に加えて、こうした政策面での後押しを背景に、次世代ゲノム解析機器の需要が高まっていることは、同社にとって追い風になると考えています。

※当ページは、2019年12月末から2020年7月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

アーク社の視点

ゲノム革命の今後の見通し



Simon Barnett

分子病理学や次世代DNA解析等を研究。
ARK入社前はコンピューター映像と機械
学習を用いた慢性創傷の治療に携わった。



当ファンドを支える
ゲノム担当アナリスト



Alexandra Urman

ゲノム編集や新しい免疫療法の技術等の
調査に注力。ARK入社前は、複数の医療
施設で臨床がん研究に携わった。
AIや宇宙医学についても造詣が深い。

ゲノム関連技術は個別化医療の時代を切り拓く技術に

技術の進歩に伴うゲノム関連技術のコスト低下は、今後3-5年間、同技術の需要拡大を通じて、ゲノム関連企業の収益性を押し上げるとみています。

ゲノム解析のコストの低下は、より身近な診断項目のひとつとしてゲノム解析が使われるきっかけになると期待されるほか、遺伝子レベルの検査で患者ごとに異なる病気の原因や病態を特定し、病気を根治する「個別化医療」の時代を拓くものになると考えています。

また、ゲノム編集技術は、単一遺伝子の異常が原因であるとされ、世界に3億人を超える患者が存在する希少疾患の重要な治療手段の一つになると期待されます。ARKでは、こうした単一遺伝子疾患における新規罹患患者の年間の最大需要は、750億米ドル程度にのぼるとみています。

ゲノム革命への投資は、最新技術の集合体への投資

ゲノム関連技術は、ヘルスケア分野にとどまるものではありません。例えば、地球規模での人口爆発を背景とする食糧不足に対する大きな解決策になると期待されるほか、持続可能な農業や養殖の実現、土地や海の人為的な利用による環境汚染の抑制などへの活用が期待されます。

ゲノム革命への投資は、ゲノム解析、ゲノム編集、AI(人工知能)など、世界経済の多くの産業に影響を与えるイノベティブな技術の集合体への投資であると考えています。

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

アーク社からのメッセージ

～ 投資家の皆さまへ ～

足元、市場環境は大きく変動し、当ファンドのパフォーマンスも一時的に大きく悪化することとなりました。このような中でも、私たちの調査・運用手法に信頼をお寄せいただき、投資を継続していただいたことに感謝いたします。

新型コロナウイルス感染拡大により、私達はゲノム技術の進化について、再認識することとなりました。2003年のSARS(重症急性呼吸器症候群)流行時にはウイルスのゲノム解析に5ヵ月を要しましたが、今回は、解析技術の向上により、わずか数日で解析することに成功しました。この先、**ゲノム解析技術は、世界の医療システムを支える**と考えています。

新型コロナウイルスをきっかけに、リモートワークや非接触型サービスが急速に普及したように、現在の非常に不確実な環境下では、消費者や企業はその行動スタイルを変え、破壊的なイノベーションを受け入れることになるだろう、とARKは考えています。こうした、社会の行動スタイルの変化が、新たなイノベーションの普及につながり、ひいては、ゲノム関連企業に大きな成長機会をもたらすことになると期待しています。

ARKは破壊的イノベーションへの投資において、足元の状況ではなく数年先の姿を見ています。ゲノム革命の普及は道半ばであり、ファンドの現在のパフォーマンスはあくまでも途中経過であると考えています。投資家の皆さまには、短期的な値動きに一喜一憂せず、**少し先を見据えた中長期の投資対象**として、引き続き当ファンドをご愛顧いただければ幸いです。



Catherine D. Wood

ARK創業者、CIO/CEO

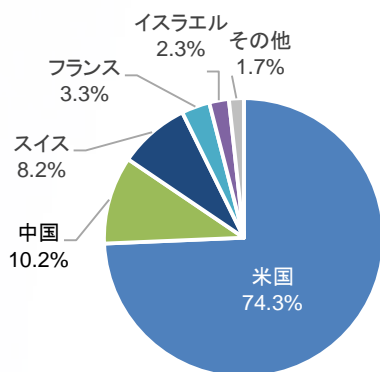
- 2014年1月にARKを設立する前は12年間大手運用会社にてグローバルテーマ株式運用のCIOとして50億ドル以上を運用。
- ダボス会議への出席や、2016“Women in Finance, Outstanding Contribution Awarded”、2018“Bloomberg's Top 50”での選出など、今、業界で最も注目される女性のひとり。

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の方見方あるいは考え方等を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

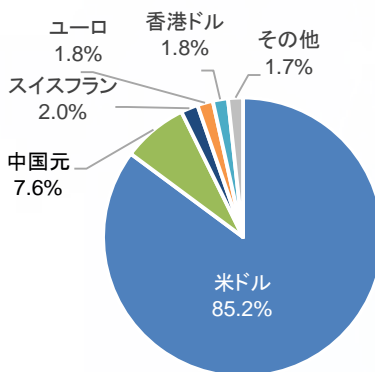
当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(2020年7月末時点)

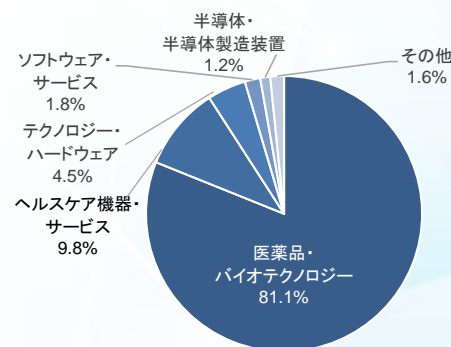
【国・地域別比率】



【通貨別比率】



【業種別比率】



※ 四捨五入などの関係で合計が100%とならない場合があります。

【組入上位10銘柄】

(銘柄数:53銘柄)

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	組入比率
1	インビテ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	6.6%
2	CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	6.3%
3	イルミナ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	5.8%
4	BGIゲノミクス	中国元	中国	医薬品・バイオテクノロジー	3.9%
5	ツイスト・バイオサイエンス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.3%
6	ケアディーエックス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.3%
7	エディタス・メディシン	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%
8	アイオバンス・バイオセラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%
9	パーテックス・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%
10	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	2.8%

※ 業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。
 ※ 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
 ※ 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 主に、世界の株式の中から、ゲノム関連ビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式*に投資を行ないます。
* 預託証券を含みます。
- 2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。
- 3 年1回、決算を行ないます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申し込み に際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様に「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡します。内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2028年12月7日まで(2019年1月16日設定)
決算日	毎年12月7日(休業日の場合は翌営業日)
購入・換金 申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日または ニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.3%(税抜3%)以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し <u>年率1.804%(税抜1.64%)</u>
その他の 費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※ 運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※ 投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目録見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

(資料作成日現在、50音順)